

『神の祝福②・キリストによる実現』

'22/02/27

聖書箇所:エペソ人への手紙 1章 7-12節(新約 p.373)

時々…、ノンクリスチャンの方が、このようなことをおっしゃられる場合があります…。「聖書の神様は、まるで、地球という大きな箱庭を作って、その中で、私たち人間を弄んでいるようだ…」皆さんも、このようなことをお考えになったりしたことはないでしょうか?…その言わんとすることは、聖書の教える神様は、何だか軽い気持ちで、私たち人間を含む様々なものを造り…、その中で、さも、ゲームを楽しむような感覚でおられるように感じる…、ということなのです。

本当に、そうなのでしょうか?…本当に、私たちの信じ仕えている神様は、ゲーム感覚で…、あるいは、軽い気持ちで…、多くのことをなし…、私たちと接しておられるのでしょうか?

命題:イエス様は、私たちに、どのような祝福を与えてくださっている?

今日は、そういったことを、皆さんと一緒に確認したいと思います。今日、私たちは、イエス様が、どのように、私たちに祝福を与えてくださったのか、ということ学んでいきます。そうすることによって、神様が、如何に、私や皆さんのことを愛し…、多くの祝福を与えようとしてくださっているのか?ということ、確認していくことができます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 1:7-12 をお開きください。

I・ご自分のいのちを犠牲にした、罪の赦し!(7節)

みことばは教えます、イエス様は、私たちクリスチャンに、『罪の赦し』という最高の祝福を与えるために、ご自分のいのちを犠牲にしてくださいました、って…。7節には、こうあります。

7 この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

①罪の赦し = 罪が贖なわれる必要性

ここをご覧くださいますと、私たち…、つまり、クリスチャンは、『罪の赦しを受けている…』とありました。そのことを、パウロは、こう説明してくれています、『その血による贖い』と…。そうありますよね? 一体、これらのことは何を教えているのでしょうか?

⇒聖書の神様は教えます、「すべてを造られた真の神様は、何者にも勝って、聖く正しい御方である」って…。ですから、みことばは教えるのです、「本来、すべての人間は、罪を持って生まれ…、生きていくが故に、裁かれなければならない。」と…。

ちょっと、皆さん。エペソ 2:1-3 をご覧ください。『1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいたので、2 そのころは、それらの罪の中においてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中において、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。』とあります。⇒何と、私たち…、すべての人間は、神様の前に罪人であって、『生まれながら』に、神の怒りを受けるべき存在であったと、みことばは教えるのです! この箇所だけではありません。ローマ 3:10 には、『義人はいない。ひとりもない。』と教えられていますし、また、同じ、ローマ 3:23 では、『すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない』ということが、はっきりと教えられています。

つまりね、皆さん…。すべての人間は、その…、生まれた当初は、その造り主である神様と、言わば、「敵対関係にあった」ということなのです。ですから、私たちと神様との間には、和解(≡仲直り)が必要で

あり、その…、問題の解決が必要なのです。それが、ここエペソ 1:7 で言われているところの、『罪の赦し』なのです。何故なら、聖書のみことばは、そういった…、赦されていない罪が裁かれる時が、必ず来ると教えるからです。例えば、Ⅱテサロニケ 1:8-9 がそうです。そこには、こうあります、『8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けます。』って…。

このように、私たちが、私たちのことを造ってくださった神様に受け入れられるためには、私たちと神様との間にある…、「罪」という溝が埋められなければならない…、つまり、罪を清算する必要があります。何者にも勝って、聖く正しい神様と…、それとは逆に、罪に汚れきってしまった私たち人間…。あなたも…、そして、私も…、自分の内にある、罪(の問題)を解決しないでは、神様と和解することはできません。あなたの犯した罪が赦されることなしに、あなたが天に行くことなど、絶対に有り得ないのです…。

②『その血による贖い』とは?

そこで必要になってくるのが…、『贖い』(エペソ 1:7)であります。普段、私たちはあまり、『贖い』なんという言葉を使いません。ですから、ここで教えられている内容を正しく理解するために、『贖い』とは、一体、どのようなものなのか?ということを考えてみたいと思います。

実は、ここで、『贖い』と訳されてあるギリシア語の言葉(ἀπολύτρωσις)は、合成語で、「～から離される、自由になる」(ἀπό)という意味の前置詞と、「(身代金を支払って、)解放する、贖う」(λυτρόω)という言葉が合わさってできたものなのです。当時、この言葉は、よく、奴隷を買い取る時に使われました…。誰かの所有物となってしまっている奴隷を、何かの身代金…、つまり、代価を払って、買い取って、自分のものとする…、それが「贖い」というイメージなのです。

みことばが教えるのは、かつての私たちは皆、『罪の奴隷』(ヨハネ 8:34; ローマ 6:6,16,17,20)でありました。生まれながらの人間は皆、罪と罪の力に拘束されてしまっていて、どうしようもない…、「罪を犯したくない!」そう願っても、すぐに罪を犯してしまうような…、罪に支配されてしまっているような状態だったのです。前回の学びで見たように、神様は、御自身の栄光のために、私や皆さんを造ってくださいました。…でも、私たちは、それが分かっている…、どうしようもなく、神に逆らって、罪を行なうことしかできなかったのです。まさしく、罪の支配下にあったのです! それが、聖書の教える、『罪の奴隷』という状態なのです。

奴隷が、自分で自分自身を買い取って、自由になることができないように…、私たちも、自分自身の力や努力で、その罪の支配下から逃れる術はありません。…だから、神であられるイエス様が、私や皆さんの罪の清算をするため…、罪の問題を解決するために、この地上に来てくださったのです!

みことばは教えます、ヘブル 9:22、『(それで、)律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。』って…。本来ならば、私や皆さんが犯した…、その罪の清算をするためには、私たち自身がそのいのちをもって、その犯した罪を贖う必要があったのです! 何故なら、その罪を犯したのは、他ならぬ、私たち自身であったからです。

また、みことばは、こうも教えます。旧約聖書のレビ記 17:11、『なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。』⇒その昔、奴隷を買い戻すために必要だったのは、それ相応のお金でした。しかし、私やあなたが犯した、罪の清算をするために必要だったのは、お金ではなく、血…、すなわち、いのちであったのです! だから、ここ、エペソ 1:7 では、『その血による贖い』とあるのです。つまり、イエス様の血が流されたから…、イエス様のいのちが、私や皆さんが犯した罪の代償として支払われたから…、私や皆さんの罪が赦されるのです!

③罪の赦しを受けるための方法

しかし、私や皆さんが、この罪の赦しを受けるために、どうしても欠かせないことがあります。そのことを、パウロは、ちゃんと、この個所で教えてくれています。実は、ここ7節のみことばは、新改訳の古いバージョンである第二版で見えますと、『私たちは、この御子のうちにおいて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。…』とありました。しかし、このみことばをギリシヤ語の観察してみると、『この御子にあって…』という言葉が、1番最初に来ています。つまり、強調されているのです！そこで、私たちが今使っている、新改訳の第三版から、「できるだけ、原語のニュアンスが訴えている、このイエス様にあって！という強調を変えないように…」ということで、イエス様の贖いということを強調するため、一番最初に、それを持ってきて、『この方にあって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。…』と翻訳されてあります。

つまりは、罪の赦しを得るための方法…、その条件を、ここでパウロは教えてくれているのです。確かに、神様は、私やあなたの罪を赦すために、罪の清算をしてくださりました。しかし、問題は、あなたが、この罪の赦しを受け取っているかどうか？です。あなたが、あなたのために罪の代価を支払ってくださった…、このイエス・キリストを信じ、受け入れることなくして、罪の赦しを受けることはできないのです。

7節をご覧くださいと、これは、『神の豊かな恵みによることです』とあります。つまりは、神様からのプレゼントです。しかし、いくら…、神様があなたにプレゼントを与えようとしておられても、肝心のあなたが、この神様を…、罪の赦しを拒んだのでは、あなたは神様と和解し…、神のおられる天国に行くことはできません。つまりは、救われ得ないのです。

ですから、どうぞ今の内に、この神様のみことばに耳を傾け、この神様を…、この神様の与えようとしておられる救いを受け取ってください！あなたが救われるために必要なことは、もう、すべて、神様がなしてくださいました。後は、ただ、あなたが神様を信じ…、受け入れて…、この救いをいただくだけなのです！

II・神の「ご計画」を、すべて実行して下さった！（8-11節）

2つ目に、このみことばが教えてくれている、イエス様が私たちに与えて下さっている祝福とは、こうです。この神様がお立てになった、救いの御計画…、また、この世の終末に関する御計画を、イエス・キリストが、実行して下さった！ということです。今日のみことばの8-11節に、こうあります。

- 8 この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、
- 9 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、この方にあって神があらかじめお立てになったみむねによることであり、
- 10 時がついに満ちて、実現します。いっさいのものがキリストにあって、天にあるもの地にあるものがこの方にあって、一つに集められるのです。
- 11 この方にあって私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。みこころによりご計画のままをみな行おう方の目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです。

①『みこころの奥義』⇒キリストにある救い&キリストにある 一致

ここ、8-11節は非常に長く…、また、多くのことが教えられています。なので、少しずつ、順番に見ていきましょう。エペソ1:8-9a、『8 この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、9 みこころの奥義を私たちに知らせてくださいました。…』⇒これは、つまり、神様が主体となって…、言い換えれば、初めに、神様が、私たちの上に恵みを与えて下さったということです。ここ9節では、『み

こころの奥義』とありますが、聖書で言うところの『奥義』(μυστήριον)とは、「かつては隠されて知り得なかったことが、今、神様によって明らかにされている真理(≒教え)」のことを言います。

かつて、旧約の時代…、つまり、イエス様よりも前の時代…、「いけにえ」というものが、神様に捧げられていました。それは、神様の命令によるものでした。ちょっと、皆さん。レビ記4章をご覧くださいませ？
レビ記4:27-31、『27 また、もし一般の人々のひとりが、【主】がするなど命じたことの一つでも行い、あやまって罪を犯し、後で咎を覚える場合、28 または、彼が犯した罪が自分に知らされたなら、彼は犯した罪のために、そのささげ物として、傷のない雌(め)やぎを連れて来て、29 その罪のためのいけにえの頭の上に手を置き、全焼のいけにえの場所で罪のためのいけにえをほふりなさい。30 祭司は指で、その血を取り、それを全焼のいけにえの祭壇の角に塗りなさい。その血は全部、祭壇の土台に注がなければならない。31 また、脂肪が和解のいけにえから取り除かれる場合と同様に、その脂肪全部を取り除かななければならない。祭司は【主】へのなだめのかおりとして、それを祭壇の上で焼いて煙にしなさい。祭司は、その人のために贖いをしなさい。その人は赦される。』

⇒このように、神様は、誰かが罪を犯したら、その罪のために、いけにえを捧げなさいと命じられました。彼らが、そのいけにえの、『頭の上に手を置く』というのは、自分の罪のために、このいけにえが犠牲となる…、自分の身代わりになるということ意味します。しかし、実は、そういったいけにえは、本当の意味では、その罪を完全に赦すことはできませんでした…。だから、イエス・キリストが、私や皆さんの罪の身代わりとなって、あの十字架にかかって下さったのです。あのイエス様の十字架は、完全な贖いをなしてくださいました！だから、たったの1度きりで良かったのです。

今度は、ヘブル書のみことばをご覧ください。ヘブル9:24-26、『24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現れて下さるのです。25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげられることはなさいません。26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。』⇒ここでは、旧約の大祭司と、完全な大祭司である、イエス様との比較がなされています。旧約の時代、大祭司は毎年、いけにえを携えて、至聖所へ入っていかねばいけませんでした。それは、つまり、当時のいけにえでは、神様の要求を完全に満たせていなかった！ということ意味しています。しかし！イエス・キリストは、たったの1度、ご自分のいのちを捧げるだけで、私たちが救われるための道を完成して下さりました。それは、言い換えれば、イエス・キリストのいのちは、天の父なる神様が満足された…、最高のいけにえであったからなのです。…というようなことが、旧約の時代には、はっきりと明らかにされていなかったのです。

だから、ヘブル書のみことばは、こう教えます。ヘブル10:10-14、『10 みこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。11 また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、13 それからは、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。14 キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。』

⇒何度も言いますように、旧約の時代に捧げられたいけにえは、私たちの罪を完全に赦すためのものではありませんでした。それらは、実は…、イエス様のことを指している、予型(≒ひな型)であったのです。だから、あの、パプテスマのヨハネは、イエス様を見て、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』(ヨハネ1:29)と言ったのです。イエス様こそは、完全な、いけにえであり…、私たちの罪を完全に清めることのできる…、聖なるお方であったのです！

実は、こういったような…、神の奥義を知ることができるようになったというのも、神様が私たちクリスチャンに与えてくださった“祝福”なのです。恐らく、旧約時代の信仰者は、神様が、このような形で…、つまり、神のひとり子であられるイエス・キリストを、この地上に遣わされて…、自分たちの罪の身代わりとしてくださって、完全なる罪の赦しをなしてくださるなんて、思いもしなかったことでしょう…。

今日のみことばの 8 節に、『この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、』とあります。前回、少し前の 4 節から学んだように…、神様は、『私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び…』、私や皆さんが、真理を知ることができるようにしてくださったのです。神様の深い摂理の内に…、神様の導きの内に…、神の奥義や真理に対する理解を得ることができるように、私たちに、霊的なことに関する洞察力を与えてくださったのです…。

ですからね、皆さんも…、こんなことをお思いになったことってありません？⇒「どうして、この人には分かってもらえないんだろう？いや、自分だって…、それまでは何度、聞いても理解できなかったのに、どうして、ある時に理解できたんだろう？って…。そんな風に思ったことって、ありませんでしたか？⇒実は、そういったことも、神様の選び…、神様の御働きによるのです。神様が、皆さんがそういったことを理解できるように、そういったような…、霊的なことに関する理解力を…、洞察力を与えてくださったから…、私たちは、真の神様のことや救いを信じることができたのです！

9 節の後半、『…それは、この方において神があらかじめお立てになったみむねによることであり、』とあるように、父なる神様は、私たちを救うための…、神の御計画を、私たちの想像や理解を絶するような…、はるか昔の内に立ててくださっていました。そして、イエス様は、その神様の御計画に従って、それら全てを実現してくださったのです！

10 節をご覧くださいますと、『時がついに満ちて、実現します。いっさいのものがキリストにあって、天にあるもの地にあるものがこの方において、一つに集められるのです。』とあるように、神様の御計画は、まだ全てが終わったわけではありません。神様の御計画は、究極的にはすべてのものを一つに集めること…、言い換えれば、キリストにある一致を与えることなのです。…どうということかと言いますと、残念ながら、今の…、この世の中は、一致どころか、分裂で満ちてしまっています…。例えば、獣たちと私たち人間…、ユダヤ人と異邦人…、ギリシヤ人と未開人…、また最近で言えば、ロシアと侵攻されたウクライナなど…。本来、それらは敵対するものではありませんでした…、罪が、この世界に入らなければ…。しかし、罪が、この世界に入ってしまったために、ありとあらゆる所に、罪が入り込んでしまっ…、そこに分裂や争い…、憎しみといったものが起こってしまったのです。

国と国…、民族と民族…、いや、個人と個人でも同じです。いえ、私たちの心の中だって、入り込んだ罪の故に分裂が起こってしまいました。かつては、そうでは無かったのに…、私たちの心の中には、善と悪が住んでいるのです。霊の思いと、肉の思いが共存してしまっているのです。

神様の御計画とは、そういった分裂を無くして…、すべてのものを一つに集め…、キリストにある一致を与えることなのです。そして、そのために、イエス・キリストは、完璧な時に…、この地上に来てくださったのです！それが、今から 2000 年前に起こったイエス様の降誕であり…、未来に起こる再臨であります。初めは空中に…。次は、この地上に…。今日のみことばの 10 節に、『時がついに満ちて…』とあるように。つまり、神の最善なる時が来たら…、最高のタイミングで…、イエス様は、もう 1 度、再び、この世に来てくださるのです！

②キリストの故に、天の御国を受け継ぐ者となった。

11 節、『この方(=キリスト)にあって私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。みこころによりご計画のままをみな行方目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです。』⇒今まで見てきましたように、今日、私たちが学んでいます内容は、前回に学んだ内容と、そう大きく変わるものではありません。特に、この 11 節がそうでしょう…。

どうしてなのか？その理由は考えれば分かります。…前回に、私たちが見たのは、父なる神様が立てになった神の御計画です、言わば、設計図です。そして、その御計画を実際の行動に移していただいたのが、私たちの救い主…、イエス・キリストなのです！私たちは、父なる神様が御計画してくださって…、イエス様が、その御計画をあまつところなく実行してくださったから、天に行ける者となったのです！

Ⅲ・私たちの希望を現実のものとしてくださった！（12 節）

最後、3つ目の、イエス様の与えてくださった祝福とは、私たちの持っていた希望を、現実のものとしてくださった！ということです。12 節に、こうあります。

12 それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。

私たちの神様は、罪から…、永遠の裁きから…、私たちを救ってくださっただけじゃありません！この後に起こるはずの、様々な出来事を、私たち、神を信じる者たちに、予め知らせておいてくださったのです。だから、聖書の預言は外れ知らずです。ユダヤ民族における預言…、イエス・キリストに関する預言…、国家としてのイスラエルに関する預言…、また、教会に関する預言…、この世の終わりに関する預言…、どれをとっても、聖書の預言は、恐ろしいまでに的中しています。それも、そのはずで。何故なら、すべてを御存知の神様によって、この聖書のみことばが書き記されたのですから…。

恐らく、ここで言われている、『前からキリストに望みを置いていた私たち』とは、かなり前から、救い主に関する預言を聞いて…、救い主の現われることを待望していた、ユダヤ人たちのことでしょう。当然、このエペソ書を書いたパウロも、ユダヤ人でありました。そして、少し後の、13 節に書かれてある、『この方においてあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き…』とある…、『あなたがた』とは、ユダヤ人に対する異邦人のことを指していると考えられます。

神様とは、このように、必ず、約束したことを成就して下さる御方です。だから、パウロは言うのです、『前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえる』ことができた、って…。イエス様は、ある時、弟子たちに対して、このようなことをおっしゃられました。ヨハネ 15:13-15、『13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。』

⇒良いですか、皆さん。イエス様は、救われた皆さんのことを、神のしもべ以上の…、「友」と呼んでくださるのです。だから、私やあなたには、数多くの…、神様の御計画(≡奥義)を知ることが許されているのです。そして、神様は、確実に、それらの御計画を成就して下さいます。だから、私たちは、神様に希望を置くことができるし…、それを現実のものとして下さる…、『神の栄光をほめたたえる』のです。

例えば、神様は、私たちに、永遠のいのちはもちろんのこと、恵みや平安、そして、愛や喜びなど…、また、私たちの必要をすべて満たして下さると、約束してくださいました。だから、私たちは、どのような状況にあったとしても、希望があるし…、いつ如何なる時でも、神様をほめたたえることができるのです…。例え、私たちの周りに物があってもなくても…、私たちが健康であってもそうでなくても…。

大切なのは、あなたが、何に信頼を置くのか、ということです。「私は、こう思う。こう感じる…。」というよな、あなた自身の知識や感情、感覚を信頼するのか、あるいは、「神様が、こう約束してくださっている。神様は、過去、すべての約束や預言を成就してくださっている。だから、私は、こう確信する！神様を信頼する！」と言って、神様の約束と聖書のみことばを信頼するのか。それは、あなた自身の選択です。

前回に学んだように、少し前の、エペソ 1:3 は、3 節から 14 節までの、総まとめのようなみことばです。ちょっと、皆さん。どうぞ、エペソ 1:3 をご覧ください。『私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。』⇒前回に学んだように、神様は、『天にある“すべての霊的祝福”をもって私たちに祝福してくださいました』し、また、現在も、私たちに、最高の祝福を…、恵みを与えてくださっています。それは、過去だけではなく、現在においても、そうですし、未来においても同じです。ちなみに、ここで、『霊的祝福』とあるのは、物質的に満たされることは、必ずしも、私たちに祝福をもたらさないからです！私たちには、物質的な祝福よりも、霊的な祝福の方が大事なのです！

神様は真実なる御方です！決して、約束してくださったことを破るような御方ではありませんでしょ？神様は、『すべての霊的祝福をもって』、イエス様を信じた…、私やあなたを祝福してくださると、約束してくださっています。前回にもお話ししましたように、ここ 4 節から 6 節までは、過去において…、父なる神様が、私たちになしてくださったことについて説明されています。今日学んだ、7 節から 12 節までは、私たちの主なるイエス様が、最近において…、なしてくださったこと、また、将来のことについて教えられています。そして、13 節から 14 節においては、聖霊なる神様のお働きについて教えられています。

つまり、何を言いたいのか？⇒救いとは、三位一体なる神様の共同作業なのです！三位一体の神様が、何と…、私や皆さんのために、総がかりで…、私たちに祝福しよう、はるか昔から…、現在においても…、また、未来においても…、そのすべてのことを用いて…、働きかけて、最善のことをなさってくださっているのです！どうか、そういったことを決して忘れないでください！

<励ましの言葉>

ちょっと、皆さん。最後に、マタイ 26:36-42 をお開けください？『36 それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行き祈っている間、ここにすわっていないさい。」 37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。 38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」 39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさせてください。」 40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていられないのか。 41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていないさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」 42 イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころのとおりをなさせてください。』

⇒少し前に学んだように、イエス様は十字架にかかれる前夜、親しい弟子たち(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)だけを誘って、ゲツセマネの園で、祈りに専念されました。イエス様は、あの十字架を目前にして…、『悲しみもだえ』られたのです。しかも、イエス様は、『悲しみのあまり死ぬほど』だともおっしゃいました…。

イエス様は、本当は、十字架にかかりたかったのでしょうか？⇒そんなはず、ありませんよね！一体、誰が好き好んで…、十字架にかかりたいなんて考えるのでしょうか？誰も、痛い思いはしたくないし…、辱められたくないし…、他人の罪を背負い込んだ上、苦しんで、死んでいきたくはないです！

聖書が、はっきりと教えているわけではないですが…、恐らく、イエス様にとって、1 番の苦しみであったのは、十字架上で受ける肉体的な苦しみや、多くの人から向けられる中傷や辱めではなく…、私たちの身代わりとなって…、罪ある者となったことではなかったかと考えられます。それ故に、イエス様は、十字架上で、父なる神様から、目を背けられたからと、私は思うからです。その時の言葉が、あの有名な…、『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』(マタイ 27:46; マルコ 15:34)という叫びです。もちろん、これは、詩篇 22 篇で教えられているように、はるか以前から、神様の知恵によって預言されていた…、私たちの身代わりとなってくださった救い主が口にすべき言葉なのですが…、ここで、「見捨てる」と訳されている言葉(ἐγκαταλείπω)は、「見捨てる」という意味以外に、「放棄する、後に残す、顔を背ける」というような意味があるのです。つまり、この時、私たちの罪を背負って、一時的に、罪ある者となられたイエス様と、父なる神様との親しい交わりが、一旦、絶たれたのです。それが、イエス様にとっては、最高の苦しみであり…、悲しみ…、屈辱であったと、私は考えます。

そのことを、よく分かっておられたイエス様は、ゲツセマネの園で、苦しみもだえて、祈られたのです！ルカ 22:44 を見てみますと、『イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。』と書かれています。本当に、イエス様は死ぬほどの苦しみを経験されて、それでも、私たちの救いのために、十字架にかかっていってくださったのです！…そうして、あの十字架上で、私たちの罪の故に、例え、一時的ではあったとしても、父なる神様から背を向けられて、かつて、経験したことがないような痛みや悲しみ…、また、屈辱を経験してくださったのです…。

今日、メッセージの初め…、皆さんに、こんな話しをご紹介いたしました…。「聖書の教える神様は、まるで、地球というような箱庭を作って、その中で、私たち人間を弄んでいるようだ…。神様は、何だか軽い気持ちで、私たち人間を含む様々なものを造り…、その中で、さも、ゲームを楽しむような感覚でおられるのではないか…。」

いかがでしょう？今、皆さんは、聖書の教える神様のことを、そのように、お感じになっておられます？⇒いいえ！神様は…、また、イエス様は、皆さんを愛し…、皆さんのために…、皆さんの罪の身代わりとなってくださったのです！神様は、最高の愛でもって…、私たちのことを愛し、私たちのことを祝福しよう！としておられるのです。

どうか、この神様の愛に…、祝福に…、心から感謝し、あなたの全身全霊でもって、神様をほめたたえる者となっていきたいと思います。そして、どうか、まだ、この神様を信じておられない方は、1 日も早く、イエス様を信じて、この救いを受け取っていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。